

平成州紙



おりおりの記

バードウォッチャー皇居を巡る

国際投信投資顧問株式会社
代表取締役会長

駒形 康吉

金融市場に長く携わり、変り続けることだけが
変わらないという世界にいた。そういう人間には毎
年きちんと戻ってくる四季折々の自然は楽しい。

20年程前、お濠端の手すりに黄緑色の鳥が止ま
ってこっちを見た。何という鳥かな？と調べたの
がバードウォッチングの始まりだ。メジロだった。
名前が分かり始めると愛着がぐっと増してゆく。
以来、山や水辺へ遠出をしたり、英国在住時はア
フリカまで行ったが、ずっと地道に続けているの
は皇居のお濠端観察。丸の内近辺の勤務のお陰で、
雨の日以外ほぼ毎朝、皇居半周を今日は右、明日
は左回りと、超小型双眼鏡をポケットに歩いてい
る。記録を見ると60種に余る鳥を皇居の周りで見
てきた。

毎年渡ってくる鳥に再会するのが嬉しい。春は
ツバメ。初夏に千鳥ヶ淵を舞うコアジサシ、冬は
キンクロハジロを筆頭に多数の水鳥たち。大好き
なツグミ。つつと背を伸ばす姿がかわいい。それ
ぞれ、季節には待ち遠しくなる。

都会には稀な鳥も飛来する。ミコアイサが15年
前、暴風の翌朝に大手濠に初到来したときはびっ
くりした。オスは白地に目の周りが黒くパンダの
ようで、その後皇居の人気者となったが、残念な
がら今冬は遂に見ることはできなかった。カワア
イサもしばらく来ていたのだがこれは2009年1月
に馬場先濠を見たのが最後になった。オシドリも
10数年前には竹橋裏のお濠に20羽はいたものだ。
雪化粧した石垣とオシドリは一幅の絵だった。

年中いる留鳥でも時々ショーがある。昨夏はカ

ワセミの子育てが
半蔵門付近で見ら
れた。カワセミに
出会うと今日はラ
ッキーという気分
になる。日比谷公
園にも時々現れ、
おじさんカメラマ
ンが口コミで急に
集まることとな
る。



私は凝るのがこわいのでカメラはやらない。双
眼鏡での一期一会だ。鳥は突然目の前に現れる。
その一瞬に居合わせたものだけが見られるのだ。
鳥を探すには、何も考えないのがよい。ただぼー
っと見ている。すると風もないのに枝が揺れたり、
声が聞こえたり、視野の端を飛んだり。見つけて
じっと目を凝らすと、既に相手は私を意識してい
る。ぱっと双眼鏡で視野に入れないとその瞬間に
逃げられる。

朝は勤め人にとって貴重な時間だ。仕事へフレ
ッシュな気持ちで向かえるかどうかが一番大事で
はないか。もやもや考えながら通勤するより、無
心に頭を空っぽにする一瞬があったほうが気分は
すっきり切り替わるような気がする。時々、頭か
ら悩みが溢れ出て肩まで垂らして歩いているよう
な人とすれ違うと、双眼鏡を貸したくなってしま
う。

今年ももうすぐコアジサシの季節が来る。